

みんなの「なんな一?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

# 信毎こども記者ニュース

発行/こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.14

## マナブンと聞いた

## 満蒙開拓

### こども取材教室

信毎こども記者クラブは7月3日、取材教室「マナブンと聞く満蒙開拓」を飯田市で開きました。中国と戦争をしていた日本が開拓団を送った旧満州(中国東北部)で、

こども時代を過ごした飯田市の3人に当時の体験を聞きました。戦争体験をテーマにした曲を作って歌っているマナブンと清水まなぶさんも一緒に取材しました。

\*満蒙開拓の歴史やこども取材教室の内容は、7月11日付「こども新聞」でこども記者が伝えています!



満蒙開拓をテーマにした曲「沈まぬ夕陽」を歌うマナブン(41)

おいしいものを好きな時に食べられる幸せを感じてください。戦争は勝っても負けても、つらいことしか残らない。みんなはきょう聞いた体験を記事にしてくれたけど、僕は曲にして伝えています。二度と起きないように、学んだり、アクションを起こしたりしていければいいなあと思いました。

前澤節子さん(75) 5歳~12歳を中国で過ごす

戦争に直接かかわっていない人も、みじめな、悲しい思いをしているんです。平和を維持していけるように、みなさんも頑張ってください。

戦争が終わって、日本人として生きていくには、頑張らないといけないと思って勉強して、やっと当時のことも話せるようになりました。大人になって世の中のことを考えていくみなさんとお話ができて、本当に良かったですと思います。

中島茂さん(75) 6歳~19歳を中国で過ごす

この難しい、重いテーマに対して、きょうは、みなさん果敢に、熱心に集まってくれました。私たちは時代を選べませんが、限られた時間の中で精いっぱい生きています。そういう人たちに出会うのも大事だと思います。



本島和人さん(61) 飯田市歴史研究所



湯澤政一さん(80) 14歳で満蒙開拓青少年義勇軍に参加

みなさんは、いい時代に生まれ育っています。望みを大きく、頑張ってください。日本は戦争によって傷つく人たちがいるということも考えずに、戦争で豊かになるとしました。戦争はあってはならないものです。

### 戦争で感情をなくした家族の死

小牧弘季記者

前澤節子さんは5歳の年に家族で満蒙開拓団に加わり満州にわたりました。冬がとてまきびしかりたり、ひいおばあさんが亡くなったたりしましたが、だいたいは楽しくすごしていたそうです。

しかし1945(昭和20)年日本が戦争に負け、ソ連軍がおしかけてきました。前澤さんたちは学校にひなんしましたが、守ってくれるはずの関東軍(日本軍)はもうにげていました。ソ連軍が来て時計など金目の物を持っていき、とてもこわかったそうです。

前澤さんはその後、日本に帰る船に乗り、軍隊に行かされていたお父さんも帰国できないうちに亡くなりました。

そして、日本に帰るために300キロもはなれたハルビンへ2週間歩きました。小学校に収容されましたが、食べ物アワやヒエなどで全然足りませんでした。お母さんや弟もここで亡くなりました。しかし、前澤さんに悲しさはなく無表情で、妹も気がない状態だったそうです。

8月14日(土)付の信濃毎日新聞に、信毎こども記者クラブの年間テーマ「知りたい、会いたい、65年前のこどもたち」の特集ページがあります。湯澤政一さんをはじめ、当時こどもだった方達の戦争体験談をこども記者たちが伝えてくれます。